

## 中山間地の配食サービスにおけるボランティア活動者の 問題認識と保健福祉の広報に対する期待

ヤナギサワ ヒサヨ ヨシモト テルコ  
柳澤 尚代\* 吉本 照子<sup>2\*</sup>  
ナミカワ キョウコ アベ ヨシエ<sup>4\*</sup>  
波川 京子<sup>3\*</sup> 阿部 芳江<sup>4\*</sup>

**目的** 中山間地の配食サービスにおけるボランティア活動者（以下、活動者）が、活動を通して認識している問題、および行政や社会福祉協議会（以下、社協）に期待する広報の内容を明らかにする。

**方法** 調査対象地域は、高齢化率25%以上で人口4千人未満の3つの自治体A, B, Cであり、調査対象者は、A, B, Cの配食サービスにおいて調理あるいは配達を担う活動者総数173人のうち、社協や保健師を通して書面で目的および方法を説明し、協力する意思のある活動者A: 28人(活動者総数に対する割合40%, 以下同様に各地域の活動者数に対する割合を示す), B: 11人(48%), C: 22人(28%), の計61人(35%)であった。調査項目は、日頃の配食サービスの活動を通して目指していること、感じている問題とその解決方法、行政と社協に対する要望であり、5~10人のグループインタビューを行い、逐語録を作成した。複数の研究者が行政と社協に期待する広報に関連した部分を抽出してコード化し、内容の類似性をもとにカテゴリー化を行い、期待する保健福祉の広報の背後にある問題認識との関係を分析した(調査期間2003年3~11月)。

**結果** 活動者が行政と社協に期待する保健福祉広報の内容は3つのカテゴリーと、各々2つの内容を含んでいた。【利用者・住民が配食活動のねらいや内容を理解するための広報】として、〈高齢者が自発的に配食サービスを利用できるための周知〉、〈配食活動に関する住民の理解を促すための啓発〉を期待し、【活動者の量的・質的確保のための広報】として、〈活動者確保に行政・社協も責任を取るための募集〉、〈意欲ある活動者を誘引するための探索〉を期待し、【活動者と利用者の関係を調整するための広報】として、〈配食を円滑に行うための支援〉、〈活動への評価的支援〉を期待していた。

**結論** 活動者による保健福祉広報への期待は、高齢者自らが自発的に配食サービスを利用できるよう、高齢者を取り巻く住民の理解を促す啓発と、活動継続のための意欲ある活動者の確保と、円滑な活動への支援とそのしぐみを求める内容であった。これらは、活動者が配食サービスを効果的に機能させるための課題として認識した内容であり、行政や社協、住民と共有したい配食サービスの意味や実態を示していると考えられた。活動者の広報への期待内容の明確化は、行政と社協及び住民や活動者が共有すべき情報を明らかにすることであり、期待に応えることが連携の推進に必要である。

**Key words** : 配食サービス, ボランティア活動者, 行政, 広報, 連携, 中山間地

\* 岐阜大学医学部看護学科地域・精神看護学講座  
2\* 千葉大学大学院看護学研究科専攻看護システム管理学専攻  
3\* 札幌医科大学保健医療学部看護学科看護学第三講座

\* 山口大学医学部保健学科看護学専攻地域・老年看護学  
連絡先: 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1-1  
岐阜大学医学部看護学科地域・精神看護学講座  
柳澤尚代